

1月の伸銅品生産、率は大幅増も量は前月並み 統計推移と実感のズレは5月まで続く見込み

日本伸銅協会は1月の伸銅品生産速報を発表した。総生産量は前年同月比55.2%増の6万7,300トン。大幅な増加となっているのは前年同月の大幅減産の反動によるもの。連続プラスも3ヶ月目だが、本当に回復基調かどうかを見極めるには、需要が回復に転じた09年5月以降の前年同月比を見ていく必要がある。しばらく統計は実感とずれた状態が続くものとみられる。

銅製品は条が141.5%増の2万950トンで3ヶ月連続のプラス、管は0.2%減の9,230トン14ヶ月連続のマイナス、棒は11.6%減の2,129トンで18ヶ月連続のマイナス、板は6.4%減の1,157トンで14ヶ月連続のマイナス、線は36.7%増の354トンで2ヶ月連続のプラス。前年同月の極端な落ち込みによる反動で条は、大幅な増加となつた。管も前年並みになっているものの、絶対値は低く、低位横ばいという状況が続いている。ただ管は輸出が2桁の増加を記録している。中国を中心に高品質需要の増加が背景にあるものとみられる。

黄銅製品は、条は144.7%増の9,576トン3ヶ月連続のプラス、棒は23.7%増の1万4,648トンで2ヶ月連続のプラス、板は5.5%減の614トンで15ヶ月連続のマイナス、管は10%減の785トンで14ヶ月連続のマイナス、線は17.3%増の2,515トンで3ヶ月連続のプラス。自動車向け電子機器向けをけん引に、条、棒はプラス成長を堅持。線もファスナー向けの好調が続いている。管は国内はプラスになっているものの、海外での淡水化プロジェクトが低迷したままのため前年割れが続いている。

青銅製品は板条が206.8%増の4,028トンで

3ヶ月連続のプラス。棒は33.7%増の242トンで2ヶ月連続のプラス、線は316.7%増の100トンで3ヶ月連続のプラス。条製品は銅、黄銅、青銅どれをとっても絶対値でピーク期に近い水準にまで回復している。ただ半導体関連で調整の兆しがでてきているとの声も流通筋からでていることから、この水準が今年1年間を通して維持できるかには不安感の方が強い。

洋白その他は板条が139.3%増の584トンで2ヶ月連続のプラス、線は10.5%増の347トンで3ヶ月連続のプラス、棒は28.1%増の41トンで2ヶ月連続のプラス。

1月の伸銅品(全国)生産

	内需	前年同月比	輸出	前年同月比	合計	前年同月比
銅板	1,147	-3.9%	10	-76.7%	1,157	-6.4%
条	15,270	113.5%	5,680	272.5%	20,950	141.5%
管	7,114	-3.4%	2,116	12.3%	9,230	-0.2%
棒	2,071	-10.1%	58	-45.3%	2,129	-11.6%
線	347	35.0%	7	250.0%	354	36.7%
黄銅板	532	-8.4%	82	18.8%	614	-5.5%
条	8,672	133.6%	904	352.0%	9,576	144.7%
管	674	6.8%	111	-53.9%	785	-10.0%
棒	13,533	20.2%	1,115	90.3%	14,648	23.7%
線	1,525	10.5%	990	29.6%	2,515	17.3%
青銅板条	2,699	133.7%	1,329	741.1%	4,028	206.8%
棒線	298	52.0%	44	388.9%	342	66.8%
洋白板条	345	65.1%	239	582.9%	584	139.3%
他棒線	229	4.1%	159	26.2%	388	12.1%
合計	54,456	44.8%	12,844	123.5%	67,300	55.2%

単位:トン

2010年アルミ原料逼迫の可能性① 橋本健一郎氏講演



リーマンショックにより世界経済は100年に一度に危機に陥り各国は協調で景気回復に乗り出すこととなったが、世界経済再生へ向けての政策が以下の3つである。

- ①G20で各国の金融緩和政策協調
- ②環境事業への減税、補助
(HV車・ソーラーパネル・リチウム電池)
- ③大規模な景気対策
(米国:72兆円、中国:57兆円)

減税によるハイブリッド車・ソーラーパネルの販売増、金融緩和策による金融安定の確保などをうけて世界経済はハーフエコノミーから前年比で8

0割程度まで回復した。また金融緩和策やそれに伴うドル安により過剰流動性を帯びた資金が株式及び商品市場に流入し、株価や商品全般が急回復した。景気回復が進む中では2010年アルミの展望はどうなるのか。ポイントは以下の3つである。

- A.新地金(LME)が20%急騰
- B.アルミ地金需要は4000万トンへ
- C.原料のほとんどが輸出へ

まずLMEだが、プライスに関しては昨年11月5日の底値1885ドル(CASH)から中国の資源備蓄、世界的な金融緩和策等々を受けて現在約

20%程度上昇している。危惧されている歴史的水準の在庫に関しても三菱商事・三井金属販売のレポートによれば、3分の2がトレーダー・金融機関の担保になっており流通玉はひっ迫しているという。次にアルミ世界需要をみていくと、ポイントは以下の2つである。

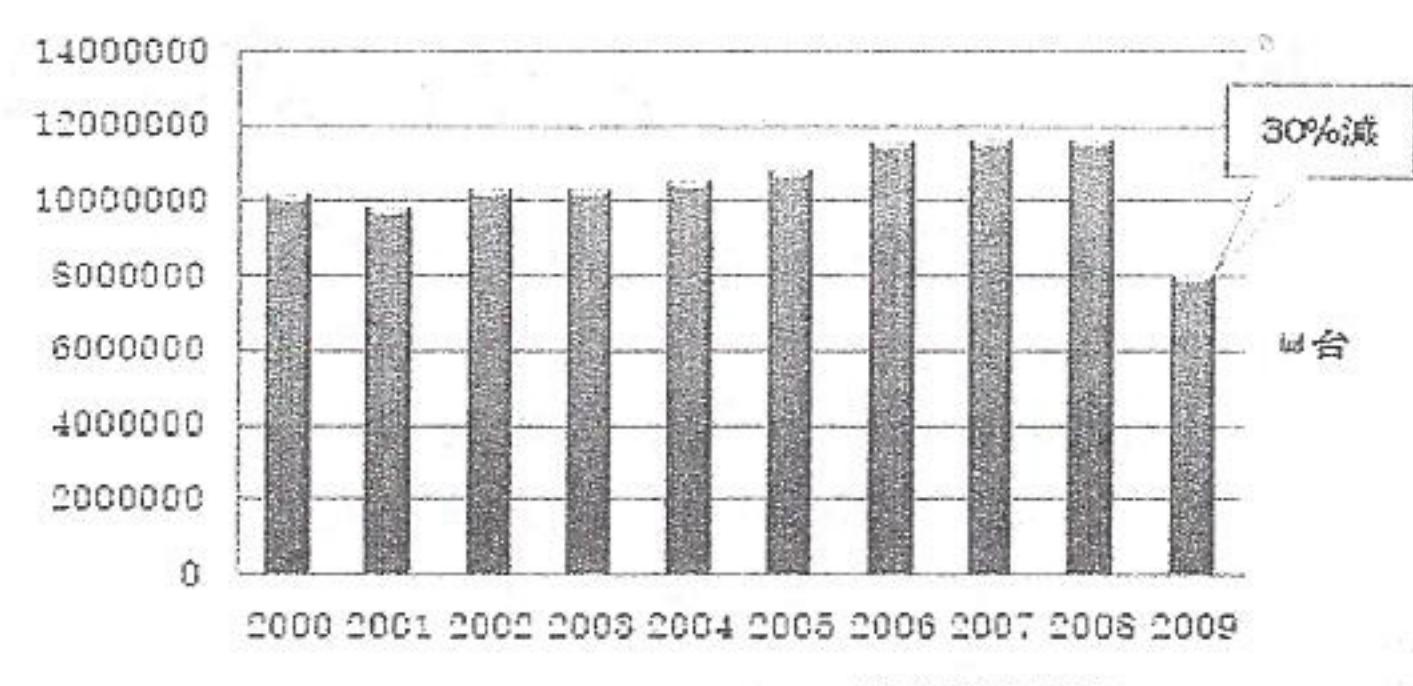
①2011年ついに4000万トン台へ

②日・中含む世界で8%拡大

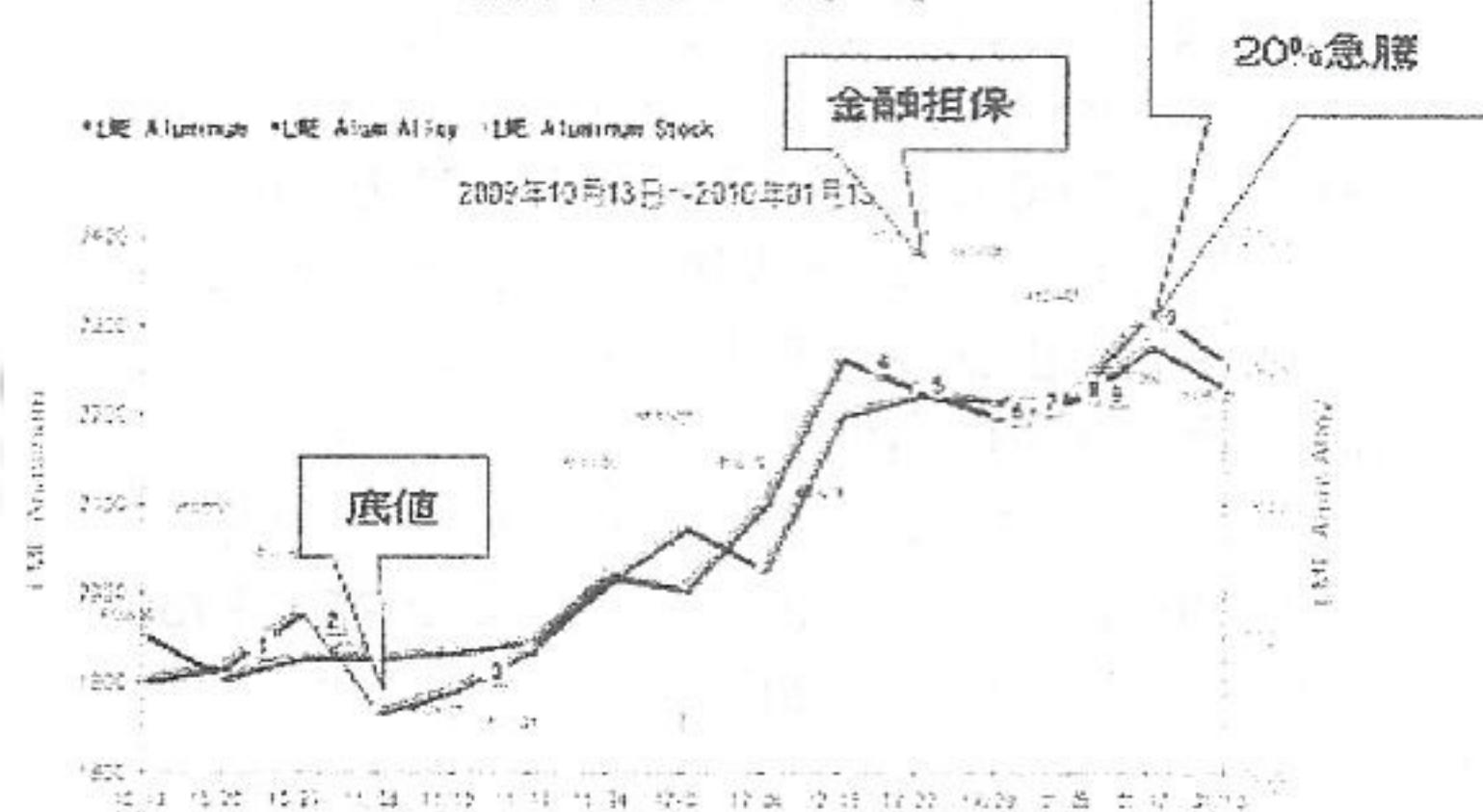
昨年の金融危機の影響で09年3400万トン台まで縮小した世界需要だが、各国協調の景気対策やBRICSの成長の影響で10年11年とも年率8%程度の成長を続け11年には4000万トンへ拡大すると予測、そして世界のアルミ需給バランスは景気回復・BRICSの成長にともない逼迫し、11年にはついにほぼバランスするとの予測が成されている。では日本国内のアルミ原料需要はどうなるのか。まずは一代マーケットである2000年からの自動車生産台数推移を見ていくと、米

国の過剰消費・中国の成長にともない2000年以降拡大を続け1000万台を維持してきた日本国内の自動車生産だが、昨年の金融危機の影響で09年は前年比で30%減の800万台割れがほぼ確定となった。次に国内アルミ輸出推移だが、自動車生産が前年比で約50%減少した09年前半、メーカーの購入停止・お断り価格を受け4月

年別日本自動車生産台数

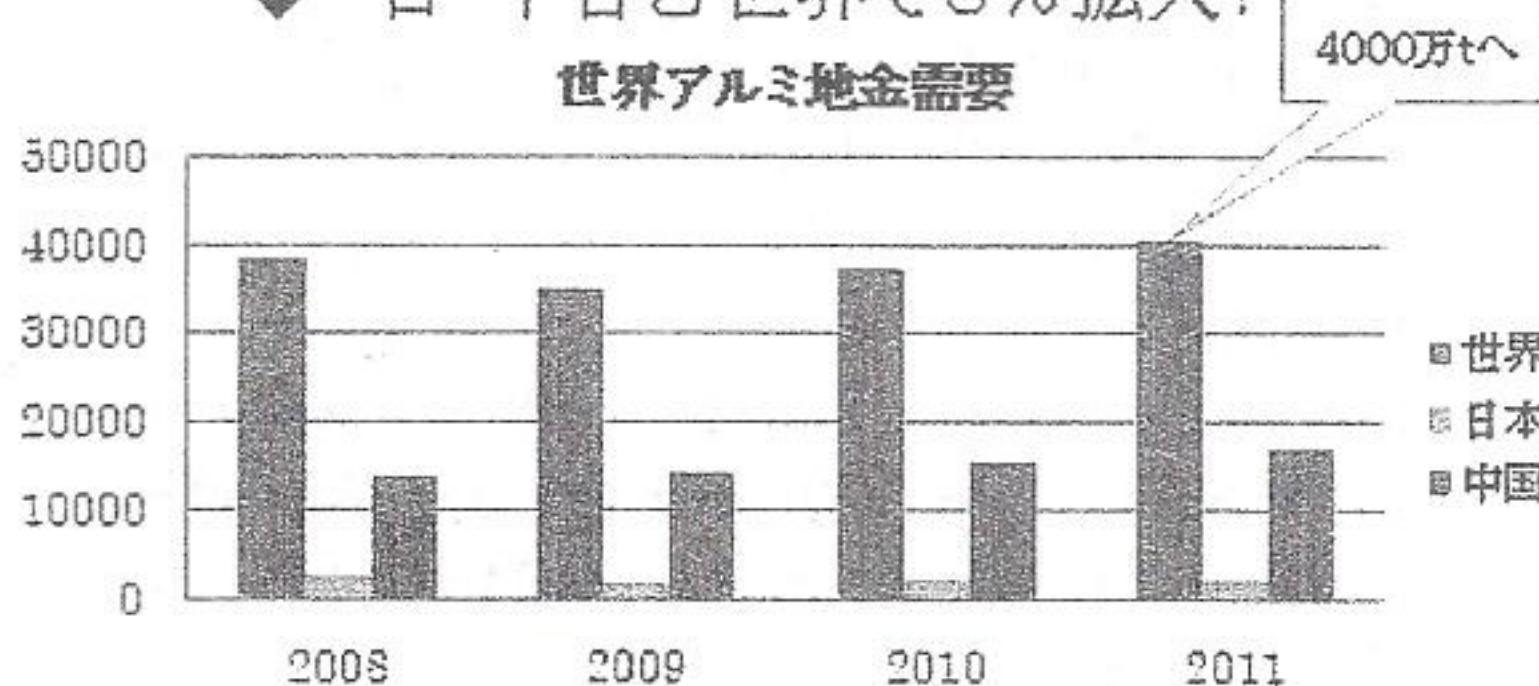


LMEアルミ



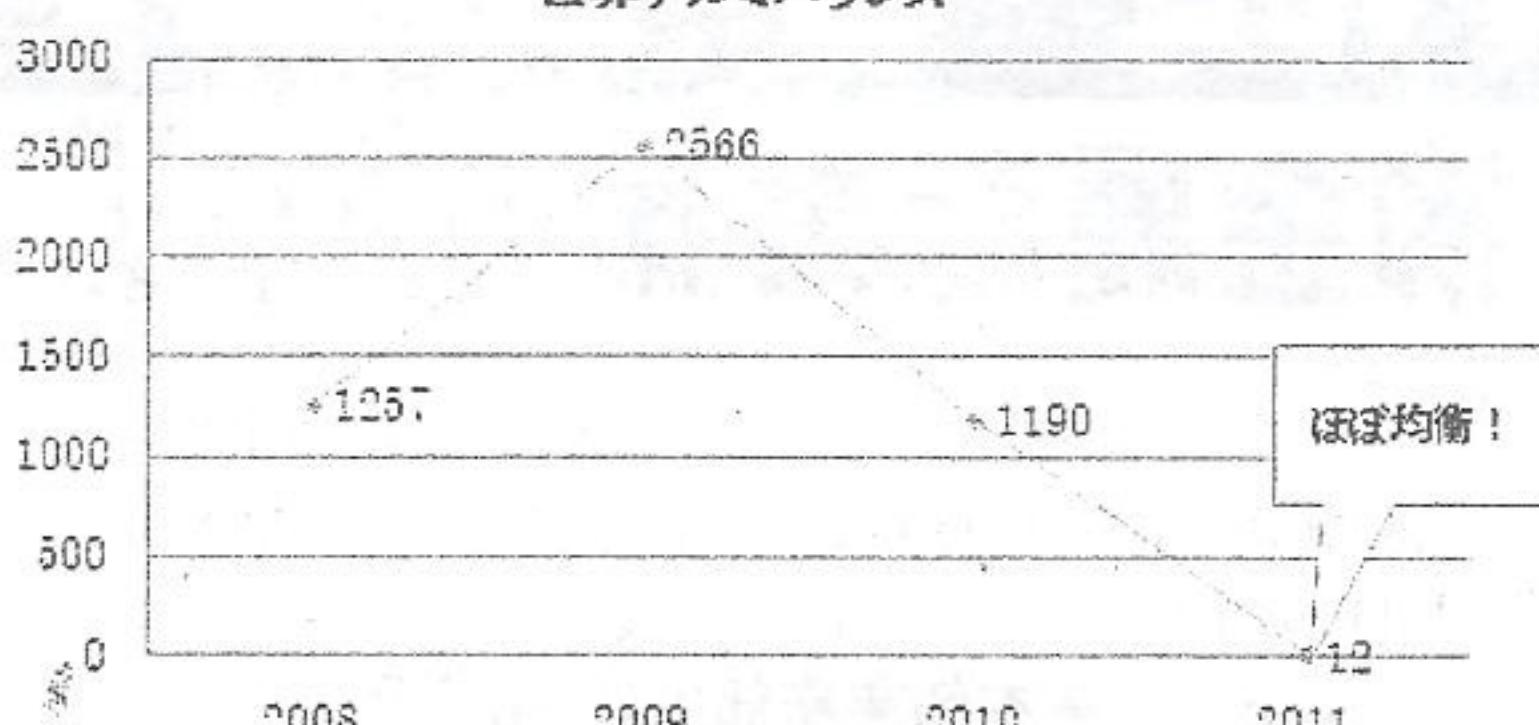
世界アルミ地金需要

- ◆ 2011年ついに4000万t台へ！
- ◆ 日・中含む世界で8%拡大！

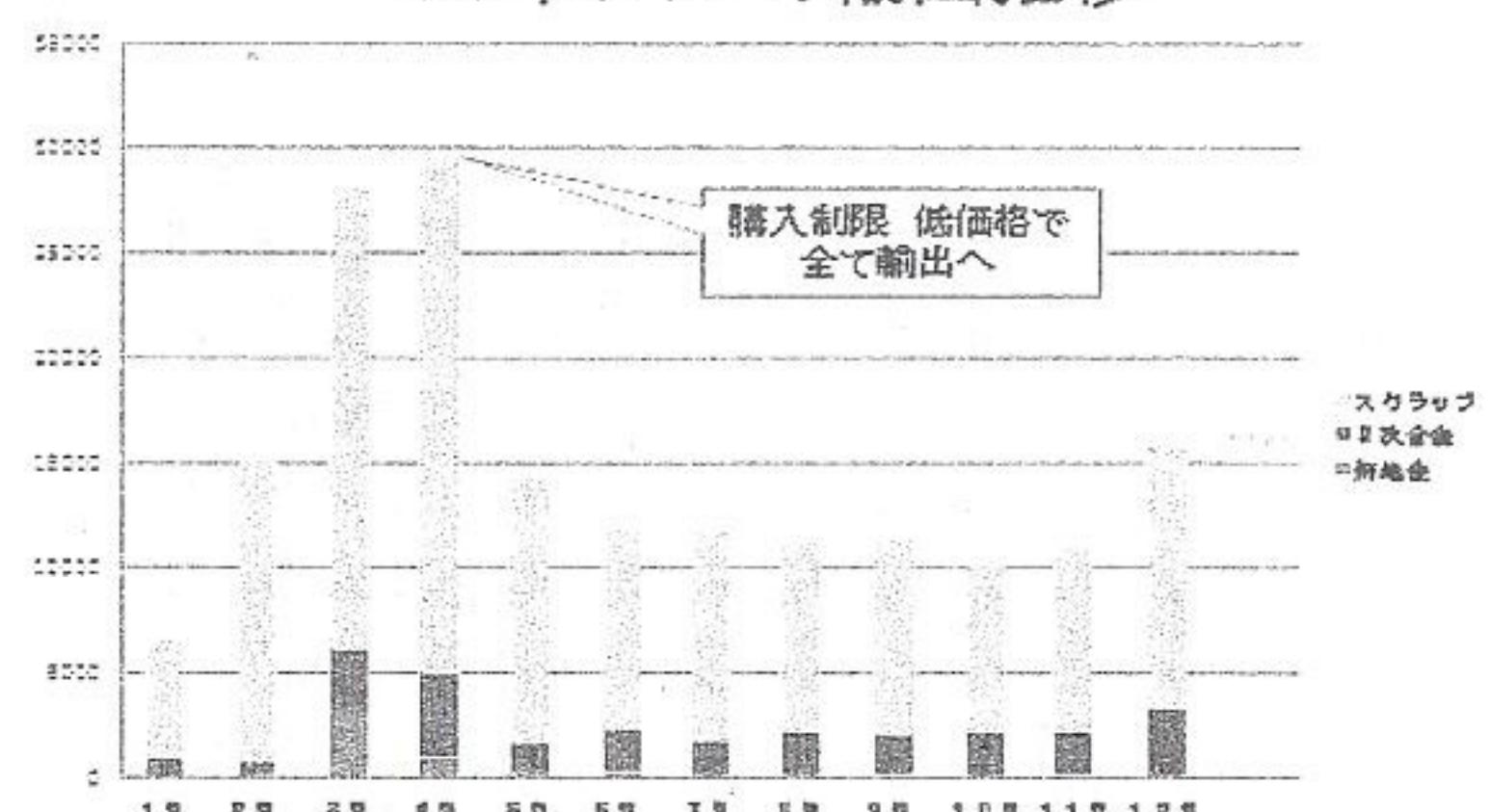


2011年 需給バランスは均衡へ！

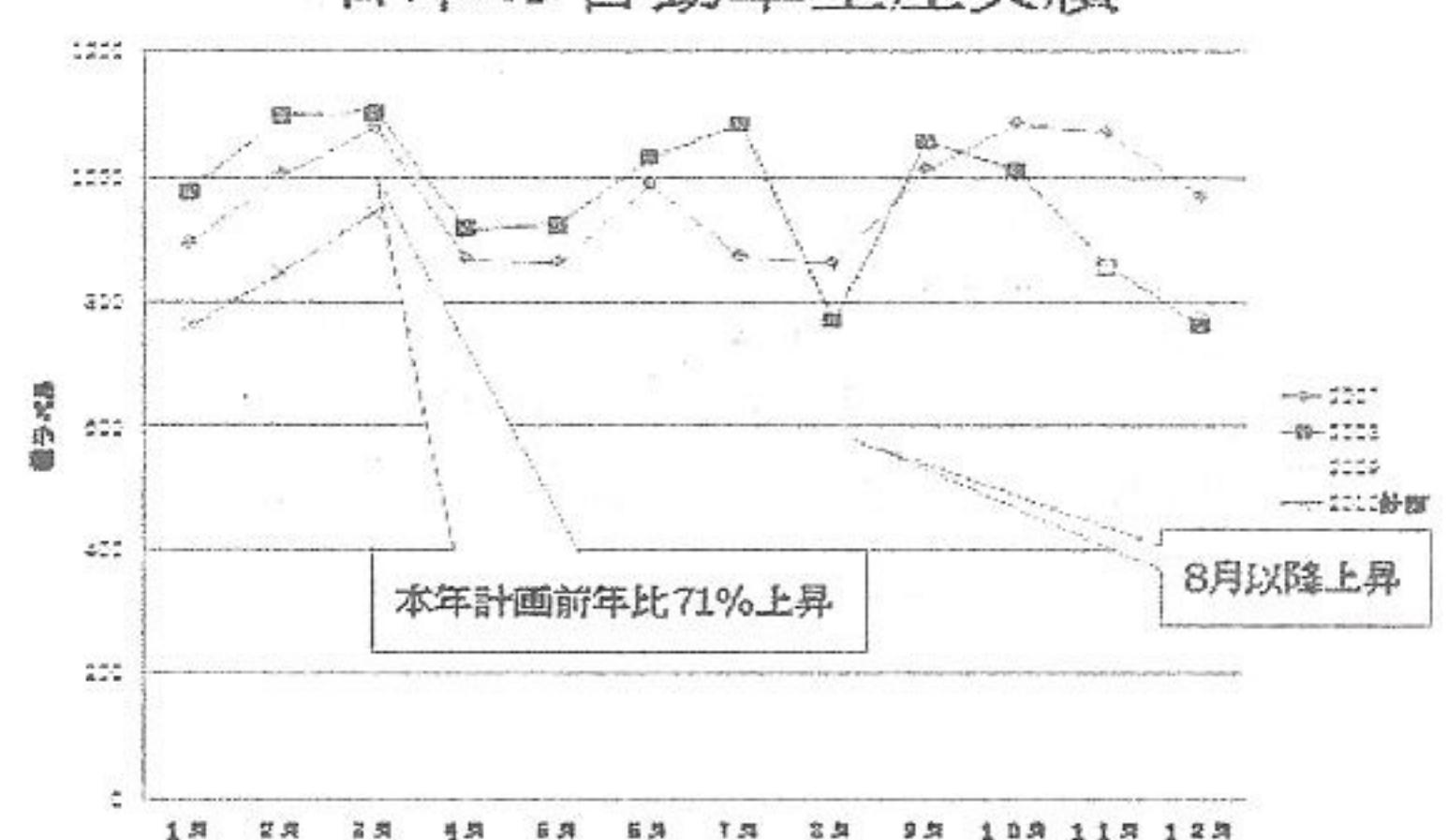
世界アルミバランス



09年アルミ輸出推移



日本の自動車生産実績



アルミ 2次合金等生産実績

